

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
めまぐるしく変化していく社会の中で、時代が求める「学び」への取り組みを進め変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。豊かでたくましい人間性を育み、キャリア教育を充実させる。 ◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎知識・技能に加えて学が意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進 ◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む ◎ＩＣＴ教育の充実と、校務のＩＣＴ化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む		・スクールミッション、スクールポリシーにより、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。 ・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。 ・ICTの利活用について、一人一台端末の効果的な活用に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。 ・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的にわかりやすい指導を学年部と連携して行う。 ・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。 ・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。 ・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践のため、地元地域の力を生かし、次年度のインターンシップ教育に向けて具体的な準備を進める。	◎時代が求める「学び」への取り組み ・主体的学びへの高いモチベーションの構築 ・対話的学びへ向けたコミュニケーション能力の向上 ・「深い学び」及び「個別最適な学び」に向け、タブレット端末等ICT機器を活用した教育活動の充実 ・学力に応じた手立てと指導の工夫 ・規律ある学び風土の醸成 ◎豊かでたくましい人間性の育み ・自己有用感やコミュニケーション力を向上し、他者を思いやり良好で発展的な人間関係を構築する力を身につける ・行事等を通して非認知能力を育み、人格形成を図る ・学校生活全般における生徒の主体的参加の推進 ・部活動の積極的参加と体験活動の充実 ・地域、保護者とともに、次代の社会を築き、守り、担う人材(生徒)を育てる ◎キャリア教育の充実 ・基礎的・汎用的能力の育成を踏まえたキャリア教育の計画・実践 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践 ・地元地域の力を活かしたキャリア教育の推進 ・次年度のインターンシップ教育に向けた具体的準備			
評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価			成 果 と 課 題
			中間	最終	総合	
教育課程 学習指導 (教務部)	単位不認定者を出さない学習指導を行う。	学習面で自信をつけさせるため、授業を受け、課題に取り組んで提出し、考查を受ければそれなりの成績が取れる。このような「やればできる」ことを生徒が実感することができる学習指導を行う。課題のある生徒に対しては、一人一人の課題に応じ、丁寧な指導を行う。教科内あるいは学校全体でこのような実践の共有を図り、さらに可能性を広げた実践に繋げる。	B	B	B	各教科において、生徒の実態をふまえて、学習内容を精選するとともに、その授業では何を生徒に学ばせるか、そのためにはどのような授業内容や形態が望ましいかということを念頭に置きながら、教科会議や授業担当者間で常日頃から連携をし、一人一人の生徒に寄り添った指導を粘り強く展開していただいた。また、毎日の授業は勿論、放課後や調査前、長期休業中には、補習や、成績不振者を対象とした基礎補充を計画的に実施し、生徒一人一人の課題に応じた丁寧な指導を行っていた。さらに、「主体的・対話的で深い学び」を目指して、各教科において、授業の形態や進め方等についてよく検討していただき、限られた授業時間を使って、生徒の実態をふまえた最大限の学習効果が得られるよう試行錯誤しながら、日々、実践を積み重ねていただくことができた。その結果、学年末において、それまでより成績不振科目が減った生徒も多くなった。 各教科において、このような努力ははしていたっているが、一方、その実践例を共有する場が限定的である。来年度は、公開授業週間や研修等の機会をさらに充実させるとともに、日々どのような授業を行っているか具体的に発信するような取組ができれば、より多くの先生方に参考になると考えられる。特に教科横断的な視点で先進的な実践例を教員が学ぶ機会を設定する必要がある。研修については、京都府教育委員会が主宰する研修は勿論、外部機関との連携によって実施される研修や、先進校視察等にも積極的に参加していただけるような土壌づくりを醸成する必要がある。
	「将来必ず役立つ」と生徒自身が実感できる学習指導を行う。	各教科で学習内容を精選し、生徒自身が「これは将来必ず役立つ。だから勉強しよう。」と実感することが出来る学習指導を行う。学習内容の精選にあたっては、教科の枠を超えて、学習内容が重複しないよう各教科・科目間で連携を図る。学習内容の定着を図るにあたっては、「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるよう、授業形態や授業の進め方を工夫する。	B	B		
	授業力向上を目指す。	研究授業や公開授業週間のみならず普段の授業を通じて学ぶ機会を昨年度より多く設定し、若手、ベテランを問わず意欲的に研鑽できる機会を設け、授業改善や授業力向上を図る。また、さまざまな研修や教材・教員等の情報提供を行い、教職員による自発的な研修を促す。	C	B		
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を全教職員と協力して、育成する。	自分自身を第三者目線で見ることや自身の行いを振り返り、落ち着いて学習に向かえる環境を作り、自律できる力を育むことで、生徒指導件数減少につなげる。	B	A	A	今年度より遅刻指導を改めた。昨年度と比較するには難しいが、感覚的には減少していると思われる。年度当初、特定の繰り返し遅刻する生徒はいたが、指導していく中で遅刻回数が減少傾向になった生徒もいる。年度末には遅刻指導対象の生徒も減少し、月5回の遅刻指導対象生徒がいない月もあった。公共交通機関の遅延問題に関しては、来年度以降も教務部と協議していきたいと思う。装飾品指導に関しても、確実に減少している。 特別指導は、大幅に減少した。今年度に特別な手立てをした成果ではなく、数年前から生徒指導の在り方を分掌内で話し合い、生徒の成長を支援できる関係性を築こうとした結果だと思われる。生徒達の成長を感じられる場面も行事等で多く見られた。生徒指導部だけでなく、日頃の教職員の生徒との関係性が大きく関係しており、生徒自身が「見てもらっている」感覚を持っているのではと考える。 各行事に関しても年度当初から分掌内で年間の計画を考えて取り組んでいる。しかしながら、行事を進めていく中で、変更・修正を行わなければならない所もあり、その都度関係各所と調整をして進めている。生徒自身も行事に積極的に取り組み達成感を感じる生徒が多くいる一方で、なかなかクラスの輪に入れない生徒も存在する。今後は、生徒全員が取り組めるまたは役割が与えられるような取組内容を考えたい。体育祭に関しては、今からではあるが、体育委員を中心に運営を行う計画を進め、教員がどのようにサポートできるかを検討し、来年度実践していただきたいと思う。 いじめに関しては、認知件数は少ないものの、クラス内での人間関係構築がうまくいかない生徒もいるのが、課題である。その都度各担任と連携し、指導・支援を行った。また、認知に関しても担任のきめ細やかな聞き取りと声かけにより、大事にはなっていない。生徒指導部としてもこれまで通り、担任と密に連携し、生徒が安心して安全に学校生活を送れるよう努めたい。
		指導生徒の理解に努め、「課題予防的生徒指導」を有し、個々に合った生徒指導を実践する。また、全ての生徒が認められている・満たされているとの思い(自己有用感)を獲得できる取組を行う。	B	A		
	褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高める取組を進める。	各行事への取組を通して、クラス・委員会の自治力を高め、自分たちで行事を創り上げる力を育成する。行事後、「やりきった」と達成感を得られる生徒の割合を増やす。	B	A		
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめ許さない態度・能力を育成するために、人権学習を充実させ、日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。	B	A		
	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。	B	B		今年度も早期から多様な入試に対応できるよう各種説明会や対策講座、進学補習等を設定し、進路実現に向けた取り組みを行った。今年度新たに実施した「プレゼン・トライアル」では、自分の志望校についてのプレゼンテーションを学校推薦型選抜の受験資格の要件として課すことで、志望校に対する情報収集や目標や目的意識を持たせるための一助となった。その一方で、希望進路先について出願締切の直前になるまで決めきれない生徒や合格してから進路変更する生徒も一部見られ、志望理由書の作成や面接対策に苦慮する生徒も多数見られた。希望進路決定を早期に詰め切ることや将来に対する見通しをしっかりと持たせることが課題である。また、今年度は指定校推薦被推薦者に対して課題のほか新たに課題テストを課した。学びを止めるなというメッセージであるが合格をゴールと捉えている生徒も見られ、自発的な学びを促すための働きかけを粘り強く行っていく必要がある。各種模擬試験の活用については、希望進路実現に繋がるように受験後のフォローアップ体制やPDCAサイクルを構築していく必要がある。進路実現に向けての情報発信や働きかけは進路指導部通信を通じて行うことができた。
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。また、新たに「プレゼン・トライアル」を実施し明確な目標や目的意識を持って学習に取り組ませる。志望理由書・小論文対策として、生徒に「書き方講座」の受講、小論文模試の受験を課す中で文章の書き方の基礎を固めさせ、全教職員による個別指導につなげていく。	B	B		
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。その道のりにおいてWEBテスト、動画などを効果的に活用できるよう導く。	C	C		

進路指導 (進路指導部)		入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。	B	B	B	今年度の最終的な就職希望者は14名で、学校紹介での就職は一次で11名中10名が内定し、一次不調の1名も二次で内定をもらった。学校紹介以外にも1名が公務員に内定した。残りの2名については、進路変更にともない年度の途中から就職指導を行い、2月に内定を決めることができたが、年度当初から希望進路について詰め切れていない結果でもあるので、突発的な進路変更が起こらないよう2年生の段階から明確な目的や目標を持たせるなど丁寧な指導を行って行く必要がある。また、入社後も企業と連携を取りながら入社後の動向についても見守っていく必要がある。2年生の就職指導については、10月下旬より指導を開始した。社会人としての自覚や責任が持てるよう指導を行ったが、働くことに対するイメージを具体的に持てない生徒もいるため、実際に企業で活躍されている方を学校に招いて話を聞くなど実感が湧かすための仕掛けを行っていく必要がある。
	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。	B	B		
		社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。さらにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。	B	B		
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなど粘り強く指導する。また、面接官として社会人を招聘した実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。	B	B		
	進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。短期・中期・長期的目標の立て方をレクチャーしたり、昨年度より実施している自己投資会の取り組みを継続して行うなど、生徒が計画的・自発的に学習するためのきっかけづくりや環境整備を行う。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にする取り組みや進学補習・夏期進学セミナーなどを充実したものにさせる。書く力を育てるため、小論文ステップワーク等を活用する取り組みを進める。	B	B		1年生については、模擬試験(全員受験)を効果的に活用するための事前説明会や職業理解ガイダンス等を実施し、希望進路決定や進路実現に向けて模擬試験を活用するためのきっかけ作りを行った。また、今年度新たに、2年生で行っている「3年生・卒業生の話を聴く会」を1年生の段階から実施し、進路目標の設定や卒業後の進路に向けた意識づけを行った。2年生については、進路別説明会や分野別説明会、志望理由書の書き方講座等を実施し、希望進路や志望校決定、進路実現に向けた働きかけを行った。1年生については、進路を決めることについての実感がわかず、2年生については、漠然とした進路希望はあるものの絞り込むことができなかったり、どのように選んでいけば良いかわからない生徒が見受けられる。説明会や進路部通信等を通じて、これまでの事例や決め手となったものを具体的に提示しながら進路を決めていくことができるよう働きかけを行っていく必要がある。また、志望理由書については、2年生の段階から、自力で考えて書けるよう、書く機会場面を設定していく必要がある。
		進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより適切な情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め具体的な見通しを持たせる。2年生の3学期までに生徒が自らの志望を宣言できるように導いていく。	B	B		
	ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	生徒の学習習慣を形成し、自ら伸びていく力を育むために、WEBテスト、動画の配信、学習時間の記録などの教材やしぐみを効果的に使っていく。	C	C		今年度は、Classiなどの学習コンテンツにあるICT教材や学習支援サービスの活用はほとんどできていない。生徒の学習状況を把握したり、学習習慣を身につけさせる上で利用できるコンテンツもあるので、次年度に向けては早期から、他校の活用事例も参考にしながら、具体的な活用方法を検討していきたい。
学校保健 学校安全教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他教職員と協力して支援の充実を図る。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担当・教科担当者と共に、支援体制を整える。	B	A	B	・支援体制については、現状の人員でできることはできているが、支援を必要としている生徒の数(潜在的なものも含む)が多く、手が回っていない面はある。対策として、SCの常駐・養護教諭の正規職員複数配置・特別支援教育コーディネーターの授業時間軽減などが望まれる。 ・健康教育については、薬物乱用防止教室・性教育講演会をそれぞれ2学年にわたって実施した。健康診断の事後指導については、肥満と低体重の生徒に対する栄養指導、要精密検査の生徒に対する受診指示などを行った。 ・ゴミステーションでの日々の指導で、分別についてはかなり整理されてきている。量のさらなる削減については、美化週間での取り組みや、HRでの呼びかけを継続しておこなう。
	生徒の健康についての意識を高める。	薬物乱用防止教室や性教育講演会を実施し、適切な行動選択や意思決定が可能な生徒の育成を図る。また、健康診断等の事後指導に力を入れ、自身の健康についての生徒の意識を高めるよう試みる。	B	B		
	環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。	公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間でのゴミ分別・削減の取り組みを行う。	B	B		
特色推進 広報活動 ICT教育 読書指導 (総務企画部)		学校ホームページや公式SNSを随時更新して、本校の教育活動や生徒の様子等について発信を行う。	A	A	A	学校ホームページをはじめ、公式SNSを活用し本校の教育活動や生徒の様子を非常に積極的に発信できた。中学生・中学校での関心が高く、引き続き積極的に取り組んでいきたい。更新内容や頻度に偏りが無いよう、また、活用しているSNSの強みを活かしながら効果的な発信を行っていきたい。学校説明会においては、本校生徒の姿を中学生保護者に見ていただき、生徒を通じて魅力を伝えることができた。参加者が増加傾向にあり、この流れを引き続き受け継いでいきたい。また、今年度は新たに取り組むことも多くあるため、アンケート集計の分析をしっかりと行い、開催時期を含め改善していきたい。今年度の成果と課題をふまえさらなる志願者の増加にむけて取り組んでいきたい。保護者や地域、中学校への情報発信について、現在活用している公式SNSを中心にしながら新たな方法を模索していく必要がある。洛東式キャリア教育の取組など学校内外に発信していきたい。特に次年度から新たに取り組む内容もあり、企業との取組も積極的に発信していきたい。
	・ホームページや公式SNSを通じての広報活動を充実させる。 ・学校内外へ本校の特色や教育活動を発信し、学校と地域・保護者との相互の良好な関係性を構築をする。	学校公開では、中学生にとって”この学校に通いたい”と思ってもらえるようなインパクトのあるものにするために、工夫を凝らす。	B	A		
		学校の内外に向けて丁寧な情報提供を行い、保護者や地域、中学校から信頼される学校を目指す。	B	B		
	・1人1台の学習用端末導入及びMDMの緩和を受けて、生徒が端末を自己管理できる力を養うためのサポートを行う。 ・端末の管理・整備を行うとともに、教職員へのICT教育への関心・意欲やICTのスキルを高めるための研修を行う。	学習用端末やアプリ、各アカウントの管理やトラブルの対応を行い、生徒と教員が円滑に授業でICT活用できるようにサポートする。また、利用規程や使用方法を周知し、情報モラルの向上を図る。	B	B		
		学校全体でICT活用が進むよう研修会等を通じて、操作方法や活用方法・活用事例の共有を行う。	C	B		
	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視	図書館だよりや図書委員会だよりを定期的に発行し、生徒おすすめ図書などの情報を提示する。また、図書委員会の活動を通じて、本の魅力を発信する。	B	B		図書館だよりや図書委員だよりの発行、教員おすすめコーナーの設置など本の魅力が伝わるような取組を行うことができた。既に本に親しみのある子どもたちだけではなく、来館者が増えるような取組を行っていきたい。図書委員を中心に生徒が主体となった取組を実施していきたい。

	点に立った図書館運営を行う。	教科での図書資料活用の推進や一斉読書週間の実施を通して、本に触れる機会を確保する。	C	C		
教育環境整備 (事務部)	・安心・安全な施設設備の維持管理を図る	定期的に施設設備の点検を実施し、危険箇所等の早期発見、早期対応に努めるとともに、安全に施設設備を使用できるよう維持管理に努める。また、本年度執行されるグラウンド施設等の改修工事について、生徒の学習環境を保障するため関係分掌との調整を図る。多様なニーズを持つ生徒についても日常にできるだけ不自由がないように環境の整備に努める。	B	B	B	設備備品の老朽化のため不具合が頻発したが、安全面を最優先し、修理復旧に努めた。学校運営への影響が最小限となるよう今後も各所と調整を図りつつ、学習環境の整備を続けたい。予算の関係ですべて対応することが難しいことが今後の課題である。
	・特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効率的に執行する	各分掌・教科との連携をとりながら効率的な予算執行に努める。	A	A		設備備品の老朽化により、修理更新の必要が発生していたため、節約を広く呼び掛けてご協力をいただき、教科分掌の要望にすべてこたえることは難しかったが、代替案などを出しつつ対応した。
	・修学支援	援護制度について周知を図り、生徒の修学や希望進路の実現を支援する。	A	A		学年と連携しつつ進めることができた。修学援助制度については周知が徹底できた。
第1学年部	社会に出ても通用する規則的で正しい生活習慣の確立	学校生活のルールが定着するように、積極的に声掛けをする。また、できていない生徒に対して個別に対応だけでなく、集団として良い方向に導く。	C	B	B	学年集会等では身だしなみを整えて時間内に集合することができた。しかし、一部の生徒は遅刻、欠席が多く、来年度への課題を残した。身だしなみ指導の点では、学年部だけでなく教科担当者や他分掌との一致した指導の必要性を感じた。
	自学自習を最終目標とする学習習慣の確立	日々の授業を大切にすることを伝えることで、基礎学力を身につけさせる。あわせて、自宅学習が必要となるような課題を教科と連携して提供することで、家庭学習の習慣をつけさせる。	C	C		授業を大切にしよう話をしてきたが集中を欠く生徒がいた。来年度も引き続きいろいろな機会を通じて指導していく。また、教科担当の協力を得て授業中の私語が多かったりや参加できていなかったりした生徒に対して、単位認定に向けて最後まであきらめない姿勢を身につけさせることができた。各教科からの課題や小テストの実施そして配信を通じて家庭学習の機会を増やす工夫をしていきたい。
	常に目配り、気配り、心配りを行い、お互いに協力し合える集団の形成	様々な生徒が同じ環境にいることを理解させ、お互いを認め合いながら常に自分事として考える機会を設け、人権に配慮できるよう啓発活動を行う。	C	B		相手を配慮する言動や行動を取るよう指導した結果、学年行事や文化祭での活動では、多くの生徒が仲間のことを考えて行動することができた。来年度は、生徒指導部と連携し、人権学習を通してノーマライゼーションについて理解を深めさせたい。
第2学年部	社会をつくる一員になることを展望しながら、主体的に学校生活に取り組むとともに、具体的な進路目標を持てるよう促す。	・時間や〆切を守って行動できるように促し(遅刻・欠課をしない、ベル着、提出物〆切を守るなど)欠席・遅刻過多による原級留置を減らす。 ・プライベート、オフィシャル、フォーマルの違いを意識させながら、TPOに応じた身だしなみが自発的にできるように指導する。 ・スマホや学習端末の使用ルールを理解し、守れるように促す。SNSとのつき合い方についても考えさせる機会を作りながら、正しく使用できるよう促す。 ・すぐに答を得ようとせず、まずは自分の力でやってみよう促す。 ・以上のことについて、他分掌と連携しながら、また保護者の理解を得ながら日々の指導に当たる。	C	B	B	・大幅な遅刻をする生徒に対して、学年独自の遅刻指導を4回実施したが、劇的に遅刻を減少させることは難しい。式典の日の大掃除、Review Day等をさぼる生徒に別途指導を行うことで、さぼる生徒を減らすことができた。欠課時間数オーバー手前まで休むつもりの生徒もごく一部にいる。全体として時間を守って集合することはできるが、自分事として話を聞く態度には課題が残る。 ・身だしなみについては、その場では従う、担任団なら従う生徒が多いが、自発的に整えることのできない生徒も多い。 ・学習端末を正しく使用できない生徒が目立つ。不適切な使用(ゲームやSNS,動画視聴など)については学校全体で段階を踏んだ指導が必要だと思われる。 ・様々なトラブルに関しては、生徒指導部と連携しながら早めに対応することができた。
		・授業中は指示をよく聞き、主体的に授業に参加するとともに、考査前にとどまらず学習する習慣を身につけるよう促す。つまずきを抱える生徒に対しては個別指導も含めて丁寧に指導に当たる。 ・ことばの力の育成に努め、思考や感性を育む。HRなどを通じて様々な文章を読ませ、多様な考え方を知る機会をつくる。また討論の機会に積極的にコミュニケーションを図るよう促す。自己推薦書や感想文については、正しい原稿用紙の使い方、正しい標記で用紙いっぱいを書くように促す。相手に伝わるように表現を工夫するよう促す。 ・進路指導部と連携しながら、卒業後の進路についての情報提供を適宜行い、卒業後の具体的な進路目標が持てるよう援助する。	C	B		・年度当初から人間関係を理由とした転退学、欠席過多による転退学が出た。 ・一部の学級や講座でうるさくなることもあるが、概ね落ち着いて授業を受けられている。考査準備が不十分であったり、提出物が出せなかったりで成績不振を抱える生徒もいるが、基礎補充などへの出席状況や取り組み状況は悪くない。3年生では早めからきっちり取り組む習慣をつけさせたい。 ・各種課題については、書かせっぱなしにならないように学年通信などでフィードバックを行い、お手本となるような生徒作品を読ませるように努めている。休業中の課題等を通して、一定量の文章が書けるようになってきている。 ・進路指導部のきめ細やかな手立てのおかげで、進路について真剣に考え始めている生徒が多いものの、まだ自分で動くことができない生徒が多い。
		・お互いが気持ちよく過ごすことができるように、挨拶、場面に応じた言葉遣い、清掃活動やゴミの分別ができるように促す。また下足箱やロッカー、学習用端末がきちんと自分で管理できるよう呼びかける。 ・人権について様々な機会に考えさせ、正しい理解をするとともに自分の言動につなげることができるよう指導する。研修旅行に向けて、教科とも協力しながら適宜平和学習に取り組む。 ・行事や部活動、生徒会活動などに主体的に取り組めるよう、委員会の活動を活性化させるとともに、自分とは合わないと感じられる相手とも協同してものごとに取り組むことができるよう指導する。 ・各分掌や各部活動顧問、保護者と連携しながら、生徒の実態把握に努め、細やかな指導に生かす。特別な支援の必要な生徒についての情報共有を図る。	C	B		・ロッカーの使い方や机上の整理など、まだ課題は多い。また端末の扱いが雑で紛失も多く、充電ができていないなどの理由で授業中に使えないケースもある。引きつづき日常的な指導を大切に行っていく。 ・大きないじめ事象は見られないが、人間関係を前向きに築くことができない生徒もいる。研修旅行を通して人間関係の深まりも見られた。 ・生徒会や部活動、学校行事において積極的、主体的に取り組もうとする生徒もあり、また文化祭などで1年生の時よりも生徒自身の手でものごとが進められるようになってきている。欠席する生徒も少なく、特別活動の補充人数、件数ともに少ない。 ・支援の必要な生徒がたくさんいるが、各分掌、関係機関、保護者と学年部が連携しながら指導を進めることができた。卒業後の進路も見据えながら、引きつづき丁寧に指導していくことが必要である。
第3学年部	社会に出る最終段階である、成人を迎えることなどに意識を持ち、規範意識や社会性の育成を行う。	・日々の授業を大切にし、学習に取り組むよう促すために教科担当者と密に連携を図りながら生徒の情報把握に努める。そのために定期的に教科担当者に授業状況アンケートを依頼し、生徒への指導を早期に行うことができるようにする。 ・進路実現に向け、個人面談等を充実させるために進路部と連携し、生徒が具体的に進路について考え、進路実現できるようサポートを行う。また、学年の中でも密に生徒の情報共有を行う。	B	B	B	日々の授業の取り組みについては、教科担当者と連携を取り、生徒の情報把握に努めたが、学年末に遅刻や欠課による欠席が多くなり、成績不振者も出てしまったため、課題が残った。生徒とのコミュニケーションを増やすため、担任団の中でSHR等をシャッフルする機会も設けた。進路の時期と重なり、設定には苦労することもあったが、担任する以外のクラスの状況を把握したり、生徒と話す機会を得ることができた。その結果、日常的に他クラスの生徒とも進路の状況について話す機会が増えたと感じる。進路実現に向けては、進路指導部との連携を図りつつ、日常的に支援を行った。その結果、ほとんどの生徒が進路を実現することができた。一方で、2月になってから進路希望を伝える生徒も若干名おり、早い段階から声掛けを心掛けてきたが、もっと多様な選択肢を示し、指導を行うことができたのではないかとという反省もある。学校行事においては、今年度の新たな取り組みや演劇など、様々なチャレンジの機会があり、生徒たちは他者と協力したり、応援したりする姿勢を育むことができた。
		・時間やルールを守る規範意識の育成のため、気になる生徒については関係分掌とも早期に連携を図り、対応ができるようにする。 - また、1限目の欠課を減らすため、学年の中でも遅刻に対する指導を行う。 ・学年全体で指導を行ったり、生徒の良い面を見つけ、伝えるためにもSHR等では定期的に担任をシャッフルし、自クラスだけでなく他クラスの生徒とのコミュニケーションを図る機会を増やす。	B	B		
		・最高学年として学校行事などにも一生懸命取り組むよう促す。その中で学校に貢献できるような力を育成する。 ・進路実現に向けてや日々の学校生活の中で他者を応援できる力を育成する。	B	A		

評価の基準　A:十分達成できている、(目標以上の成果が得られている。)　B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。)　C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。)　D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者 評価委員会 による評価	・概ね達成できており、適切な課題設定と運営がなされてる。 ・目標設定では、評価の支えとなる根拠が示せるよう、数値目標を取り入れながら設定するとよい。 ・地元地域は洛東高校を応援している。自然環境や地の利に恵まれていることを最大限活用し、地域の人材と連携しながら、さらに教育改革を進めてほしい。 ・夢や楽しさがある高校生活とともに、希望進路が実現することも望んでいる。 ・洛東高校は頑張っているイメージがある。キャリア教育につながる授業も多く展開されている。令和7年11月に実施予定のインターンシップについても積極的に協力していきたい。
次年度に向けた改善の 方向性	・令和6年度に3学年で1人1台端末がそろったので、その有用な活用について、さらなる研修と全教職員が実際に教育活動で利用することを推進する。 ・スクールポリシーに則った学校のグランドデザインの明確化を計り、各分掌が連携した学校運営を図る。 ・学習習慣の定着や基本的生活習慣の指導を各分掌が連携して行い、自学自習の習慣を確率するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を強化する。 ・効果的な広報活動をおこない、中学生・保護者から選ばれる学校づくりをすすめる。 ・「働き方改革」を具体的に進めるため、生成AIも効果的に活用し、各分掌を協力しながら業務改善をすすめる。